

令和7年度 第2回教育推進プラン点検・評価委員会
議事概要

1 日時	令和7年7月9日（水）午後6時～午後7時40分			
2 場所	オンライン開催			
3 出席者	<p>【委員】 若林彰（有明教育芸術短期大学学長）前島正明（帝京大学大学院教職研究科教授）、大平千鶴（公募区民）、川倉祐美（公募区民）、佐藤勝行（豊洲北小学校長）、関根淳之（東陽中学校長）福原良子（豊洲幼稚園長）、島田桂太（小学校PTA連合会会長）、山中聰（中学校PTA連合会会長）、矢田梢（幼稚園PTA連合会会長）</p> <p>【理事者】 本多教育長、青柳教育委員会事務局次長、瀧澤庶務課長、西尾学校施設課長、西野学務課長、金指指導室長、木内教育支援課長、大田地域教育課長、吉木江東図書館長</p>			
4 欠席者	なし			
5 点検・評価項目	<p>テーマ3 環境 施策6 「施設の整備・充実」 施策7 「安全安心・居場所づくり」 施策8 「地域・家庭」 施策9 「学校・教員」</p> <p>テーマ4 つながり 施策10 「図書館・大学・企業等」</p>			
6 意見・質疑	<p>【テーマ3】 (委員) きっかけクラブの申請について、今後電子申請ができるようになるということだが、より便利になって保護者の負担が少なくなるため良いと思う。引き続きICT化を進めていただきたい。</p> <p>(理事者) 申請の電子化に向けてはA登録が令和9年度から、B登録が令和10年度からと目標年次を定めているため、着実に進むよう取り組んで参りたい。</p> <p>(委員) 全園で預かり保育の実施ができれば、幼稚園の園児増員にも繋がるのではないか。</p>			

(續)	<p>(理事者)</p> <p>預かり保育については現在区立幼稚園2園で実施している。実際の利用状況、登録者数、利用状況などの推移を今見ているところだが、まだ増加傾向とまでは言い切れないというところで、そういういた利用状況などを見ながら今後の拡大については検討していく。</p> <p>(委員)</p> <p>ご家庭の中には夕方時間を過ごすのが難しい子どもも居るため、預かり保育が就労のサポートだけではなく、幼稚園が終わった後の子どもの安心安全な居場所の1つとして必要だと感じている。</p> <p>(委員)</p> <p>保留児童について、地域的な特徴があればその内訳を教えていただきたい。また、来年度以降保留児童数は解消見込みの有無についても教えていただいきたい。</p> <p>(理事者)</p> <p>保留児童の内訳としては、きつずクラブ元加賀、豊西、亀戸第三児童館、東砂児童館の4箇所に保留児童が居る状況である。また、保留児童の解消見込みについてはゼロに向けて取組を進めているが、次年度それが達成できるかどうかというところについては現時点では明確な回答はできない。</p> <p>(委員)</p> <p>開門時間前の居場所づくりについて、区として考えていることがあれば教えていただきたい。</p> <p>(理事者)</p> <p>本区においても、令和7年度中にモデル校3校で試行的に実施したいということで現在準備を進めている。またモデル校3校についてはこれから調整をしていく。具体的には、本来の学校の登校時間前、7時半を目安に、早めに居場所の方を準備し、ご家庭の事情で早く登校せざるをえない子どもを学校施設の中で見守るといったことを考えている。</p> <p>(委員)</p> <p>今計画中ということを伺って少し嬉しく思った。これからモデルで開始するということなので、進捗具合やそこで見えてきた課題等については小学校PTAの方に情報共有をいただき、必要であればこちらからもPTA側に共有したいと思う。</p>
-----	---

	<p>(委員) 朝の居場所づくりについては地域の人材を活用している地域があつたように思うので、そういったことも考えていただくと良いかと思う。</p> <p>(理事者) この朝の居場所づくりで1つ課題になるのが見守り員である。誰に依頼するかというところ、そして朝の早い時間かつ業務時間が1時間程度ということで、見守り員の確実な確保というところが課題だと我々も認識している。江東区では7年度のモデル校については、シルバー人材センターへの委託で実施する方向で準備を進めているが、今話があったように、自治体によっては地域の人材、また色々な委託事業者等も活用して人員確保を図っているため、今後実施校を拡大していくというような検討になった際は、多様な主体、また地域の方の協力というところも必要になってくるかと思うので、そのようなことも含めて検討を進めていく。</p> <p>(委員) 令和6年度から8年度にかけて給食室にエアコンを設置していくとのことだが、給食室にエアコンがない学校が多数あるのか。また設置する順番を後送りにしなければいけない理由などがあれば教えていただきたい。</p> <p>(理事者) 現在、全体の7割ぐらいの給食室にエアコンが設置されている状況であり、残りの学校については今実施しているところである。そのため現時点でエアコンがついていないところには、スポットクーラー等を使って対応している。令和8年度には改築する学校を除いたすべての学校に設置を行うというところで進めている。</p> <p>(委員) きつずクラブでは支援を必要とするこどもに対して、例えば専門的なカウンセラーや資格があつたりする方が対応しているのか。</p> <p>(理事者) 指導員は特に心理関係の専門ではなく、あくまでも放課後児童支援員という資格を持った職員が対応している。また、受入れにあたっては事前に通っていた保育園や幼稚園への聞き取り、現地視察、またそこで勤務している職員に話を聞き、こどもの特性を把握した上で対応方法等を検討したり、場合によっては勉強したりしながら受け入れを行っている。</p>
--	---

	<p>(委員) きっずクラブの方でも学校との連携はしっかりと取れているのか。</p> <p>(理事者) きっずクラブと学校で会議をする場があるので、そういったところで先生方との情報共有も実施している。特に発達に課題がある子どもの場合はどのような支援を実施していくかが非常に重要なため、例えば教室での支援の様子を情報共有し、連携を図っている。</p> <p>(委員) 学校では、年1回は必ず資料をもとにしながらチーフや管理職との打ち合わせをしている。また特別な支援を要する子については、学校からはカウンセラーとの繋がりや保護者と連携しているといった話を伝え、きっずでも同じように対応して欲しいという依頼もしている。</p>
	<p>【テーマ4】</p> <p>(委員) 図書館でのイベントについて、これからも様々な新しい企画を小さなお子さんから大きなお子さんまでが楽しめるものを是非やっていただきたい。</p> <p>(理事者) 本に馴染みがなく中々図書館に来る習慣がない子どもたちも、イベントがあれば図書館に来てくれるだろうということで、一見図書館と関係のない工作会やプログラミングなど、今のトレンドに合わせたイベントや取組を実施することで読書率の向上に繋げていく。</p> <p>(委員) 中学年の子どもの読書率が伸び悩んでいるという話があったが、電子図書館の利用状況は。</p> <p>(理事者) 今年度から小学校3年生以上の全小中学生に専用IDを配付したことで、朝の読書活動を含めて活用していただいている。また、電子図書館の利用者の中で専用IDを活用している方が全体の7割ということで、小・中学生の方にはより親しんで使っていただいている。今後はニーズに合わせて、例えば電子で借りられる本の拡充や年代ごとのニーズを踏まえたジャンル本を増やすといったことを進めていく。</p>

	<p>(委員)</p> <p>様々なイベントを図書館で実施しているとのことだが、幼稚園児に関わるようなイベント等をさらに増やしていただけると、幼稚園の児童、ご家庭も含めて図書館にもっと足が運ばれるのではないか。</p> <p>(理事者)</p> <p>例えば、こどもプラザ図書館はこども家庭支援センターと併設しているため、こども家庭支援センターの方から図書館でのイベントを紹介したことで、その施設でのイベントに参加できるようになったというようなお言葉をいただいている。今後も横の連携を大切にし、情報発信をさせていただく。なお、現在SNS等を活用した情報発信も検討している。</p>
	<p>(委員)</p> <p>令和6年度の図書館サービスに参加している人数や図書館を利用する児童の人数などの実績を見ると令和7年度の目標値は実現が難しいと思う。この点について区として何か利用者数を上げる施策をするのか、それとも図書館の活用も含めて利用制限をしていく方向に直すのか、動きあれば教えていただきたい。</p> <p>(理事者)</p> <p>サービスとしての回数は800回という目標値に対して806回なので、目標回数は上回っている。一方でそこに参加していただいている人数については38,000人に対して25,000人ちょっとということで及んでいない。また利用者登録者数も22,000人と比べて目標値に達成していないという状況である。読書率や図書館の利用は区として上げていかなければならぬため、今後も図書館に来ていただくために様々なイベントに参加していただくことで数値を上昇させていけるよう進めていく。またコロナ禍以降、世の中の生活様式が大分変わってきたなというところも実感しているので、指標をどうしていくか、施策をどう打って出るかというところは、まさに現在作成中の「江東区立図書館ビジョン」を中心に修正が必要だと感じている。</p> <p>(委員)</p> <p>中々状況的に厳しいのかもしれないが、図書館自体のサービスは非常に大事なものだと思うので、そこは今年度の取組を踏まえ、来年度以降どういった施策を実施していくのか。無くす方向ではなく、継続する方向を発見していく方法で何か考えいただきたい。</p>

	<p>(委員)</p> <p>コミュニティ・スクールの導入については、何か定量的な評価をされているのか。</p> <p>(理事者)</p> <p>コミュニティ・スクール導入校につきましては、毎年1回調査を行い導入の効果を確認している。その調査の結果をまだ導入していない学校にも共有し、今後の導入の検討の参考にしていただいている。また調査の結果の中では、導入から間もなくてまだ効果が見えないというような意見もあるが、導入して少し年次が経っているところからは、地域学校協働本部の活動が活性化したとか、地域人材を活用した活動が増えたといったことで一定の評価をいただいている状況である。</p> <p>(委員)</p> <p>コミュニティ・スクールについては、一定の評価があると聞いているが、具体的な定量的評価がよく見えないというのが、個人的な意見である。そのため、定量的に評価する指標みたいなものが今後できるのであれば、是非モニタリングをしていただきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>「江東区立学校における働き方改革推進プラン」の中で、在校時間60時間を超える教員をゼロにするとの記載があるが、こちらの達成状況は。また現場の方では先生方の働き方改革が進んでいく実感があるか。さらに「江東区立学校における働き方改革推進プラン」は今年度最終年度であるため、次年度のプランの改定に向けてどのような方向性で進めていくのか。</p> <p>(理事者)</p> <p>在校時間の削減について、具体的な達成状況は把握していないが、確実に減少に繋がるような取組をこれまでも実施しているので、その効果を見ながら検証していく。また「江東区立学校における働き方改革推進プラン」は今年度で計画期間を終了するものであるため、来年度以降の新たなプランについてはこれから検討していく。現在のプランの進捗状況や取組内容を検証した上で、今後どのように進めていくかということを検討し、さらに教員の働き方を改革できる内容として進めていきたい。</p>
--	--

以上